

1. 単元名

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり～地域インタビューや福祉体験を通して～」

2. 単元の目標

- 他教科で得た知識を生かし、様々な情報と関連付けながら、安心して暮らしやすい社会について理解し、言葉や図などを用いてまとめたり発信したりすることができる。 (知識及び技能)
- 人口推移のグラフや地域に住む人々へのインタビュー、体験活動などをもとに課題を見だし、地域の高齢者や地元に住む多くの人が安心して暮らせるまちづくりのための方策を考えたり発信したりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 地域がかかえる課題を見いだすために、積極的に情報収集を行おうとしている。自分たちにできることを模索し、地域社会に向けて学んだことを発信しようとする態度を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

かつて炭鉱都市として栄えた大牟田市は、人口減少や高齢化が深刻な問題となっている。それらの問題に伴い、人手不足や公共施設の老朽化、医療・福祉サービスの充実、公共交通機関の利用者減少など、多くの課題を抱えている。高齢者はもちろん誰が安心して暮らすことができる持続可能なまちづくりを考えていくことは重要である。

本単元では、地域に住む人へのインタビューや高齢者福祉体験等の活動を通して、地域の実態を把握したり、これからの活動に具体性をもたせたりすることが期待できる。また、地域の方や福祉施設ではたらく方、高齢者とのコミュニケーションを通して、人とのつながりの心地よさや、関係を深めるコミュニケーションスキル向上も図ることができる。さらに、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことを通して、積極的に社会に参画しようとする態度を養う上でも意義深い単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、主に平原小・高取小・三池小の一部からの校区から入学している。歴木中周辺や校区西側には住宅地が広がり、バス路線がある幹線道路が通っている地域もあれば、三池山のふもとののどかな風景が広がる地域もある。自然豊かな校区である。

生徒たちは「礼を正し、場を清め、時を守る」という歴木中三原則をもとに生活しており、地域に愛される学校を目指しているが、地域社会との交流が積極的に行われているとは言い難く、生徒自身も地域の担い手として自覚は低いと考えられる。しかし、校区内には、生徒の親と祖父母の三世代で暮らす家庭や、一人暮らしの高齢者世帯も多く生活しており、高齢者を支えるまちづくりは身近な問題であり、本課題を取り上げる意義は大きいと考えられる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、大牟田市の人口の推移や年齢比率のグラフを提示する。このことを通して、大牟田市の課題を分析・推測し、人口減少や高齢化世帯の増加などに気づかせる。また、今後の活動の見通しをつかむことができるようにする。

次に、校区内に住む人に「大牟田市での暮らし」についてインタビューを行い、地域の人々の声を実際に聞きながら、暮らしの中で困っていることを探る活動を設定する。また、高齢者体験活動や福祉施設との交流を通して、高齢者の生活の実態や困難さを体験して知ることができるようにする。それらの活動や交流から、安心して暮らせるまちづくりのために、本市が抱えるさまざまな課題を多角的・多面的に捉えて、方策を考えさせられるようにする。

最後に、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに向けた課題の解決策をまとめ、発信する場を設定する。また、自分たちの考えた解決策を行動に移していくことができるように、地域の住民、商店、民生委員と連携したり、学年や生徒会の取り組みに位置付けたりしていく。そして、取り組みの振り返りと評価を行いながら、取り組みの改善を繰り返し、継続的な取り組みになっていくようにする。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…現在の地域のように、そのまま未来の地域の姿であり、自分や身内、地域の人々の将来の暮らしの安心が担保されていない地域となっている可能性があるということ。

連携性…これからのまちは、福祉施設ではたらく人や身内だけで高齢者を支えるのではなく、地域全体で支えていくことが大切であること。

・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

大牟田市が抱える生活上の課題や、誰もが安心して暮らせるまちづくりのための方策を見いだすために、課題を把握し見通しや目的意識をもって活動を計画する。

他者と協力する態度

高齢者から幼い子どもまで幅広い人々の立場に立ち、地域に住む人々の考えや行動に共感するとともに、協力・協同してものごとを進めようとする。

つながりを尊重する態度

地域の高齢者や高齢者福祉施設ではたらく方々などとの関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

自分たちだけでなく、高齢者や若い子どもなど、同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

人権・文化の尊重

誰もが安心して生活できるように努めながら、代々受け継がれてきた文化を尊重しなければならない。

・ 達成が期待されるSDGs

3 すべての人に健康・福祉を

1.1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①他教科で得た知識を生かし、様々な情報と関連付けながら、安心して暮らしやすい社会について理解することができる。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図などを用いてそれらを関連付けながらまとめることができる。</p>	<p>①市民の生活に関するデータや地域の人の声、高齢者の生活について課題を見いだすことができる。</p> <p>②安心して暮らせるまちづくりのための方策を考えることができる。</p>	<p>①地域がかかえる課題を見いだすために、積極的に情報収集を行おうとしている。</p> <p>②自分たちにできることを模索しようしたり、地域社会に向けて学んだことを発信したりしようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全20時間）

次	学習活動・内容	○学習への支援	評価・備考
一	<p>1 歴木中の生徒数の変化、大牟田市の人口の推移などから、大牟田市の課題を捉えて活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の卒業アルバムと最近の卒業アルバムを比較する。 人口減少、高齢化がすすんでいる。 人手不足、施設の老朽化、公共交通の利用実態。 	<p>○より暮らしやすいまちを実現するための課題を見いだすことができるように、社会科で学習した知識と関連付けながら、データを分析したり原因を推測したりする活動を設定する。</p>	<p>ア① （知・技）</p> <p>イ① （思判表）</p>
二	<p>2 情報収集の方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くに住む祖父母の暮らしを調べる。 地域に住む人にインタビューをする。 高齢者の暮らしを体験したり、福祉施設に訪問したりする。 <p>3 地域インタビューを行う。</p> <p>(1) インタビューの計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰に何を聞くか。 <p>(2) インタビューの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の一人暮らしで買い物へ行くのもひと苦労。 子どもが地域から減った。 <p>4 高齢者疑似体験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さい文字が見づらい。 音が聞こえづらく、死角も多くなる。 段差や坂道などにいつもより気をつけられないといけない。 <p>5 福祉施設との交流活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設の利用者の話。 福祉施設ではたらく人たちの話。 どのような視点をもって暮らしやすいまちをつくるべきかを考える。 	<p>○課題解決につながる方法を見つけだすための情報を集めることができるように、地域に住む人のようすや高齢者の暮らしについて調べる方法を話し合う場を設定する。</p> <p>○データだけでは分からないような、実生活での暮らしにくさを知ることができるように、地域に住む人に大牟田での生活についてインタビューをする活動を設定する。</p> <p>○高齢者の日常生活に潜む困難さや不自由さに身をもって体感し、気づくことができるように、疑似体験を行う。</p> <p>○高齢者や認知症の方と私たち（中学生）との違いを理解するとともに、あらゆる視点から暮らしやすさを考えことができるように、福祉施設ではたらく人や高齢者と交流する活動を設定する。</p>	<p>ウ① （主体的）</p> <p>ウ① （主体的）</p> <p>イ① （思判表）</p>
三	<p>6 解決方法を議論し、策をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区内で高齢者が暮らす上で不便な場所を見つけ地図にまとめる。 生徒会で地域お助け隊をつくる。 地域住民との交流会を実施する。 <p>7 高齢者が安心して暮らせるまちづくりの方策の発信と実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPを活用して発信する。 生徒会活動を通して地域の方々との交流を定期的に行う。 民生委員との連携を図る。 <p>8 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのできることが積極的に行動していきたい。 	<p>○課題のよりよい解決策を導くことができるように、高齢者が安心して暮らせるまちづくりの方策について議論する活動を設定する。</p> <p>○調査や体験活動を通して考えたことをまちづくりの方策を実行していくことができるように、高齢者が安心して暮らせるまちづくりについて発信する場を設定する。</p> <p>○今後の活動へと発展させることができるように、活動を振り返る場を設定する。</p>	<p>イ② （思判表）</p> <p>ア①② （知・技）</p> <p>ウ② （主体的）</p>

